

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

2020年度事業計画

I 公益目的事業

低炭素社会・循環型社会推進事業・自然共生社会推進事業

1 はじめに

2019年4月1日、京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ21フォーラムとの団体統合を経て両団体の事業及び会員を継承し、「ごみ減量」の専門性や「プラットフォーム・社会実験・政策提言」の機能を獲得しました。また、「京都市の外郭団体」から「京都市の関連団体（必要に応じて指導及び調整等を行う団体）」となり、京都市から自律化しました。

3団体の既存の枠組を最大限継承した「激変を避けた事業体制」でスタートし、統合後3年を目途に、各団体の持ち味を活かし「京都を中心とした環境保全活動をエンパワメントし、全国に社会的インパクトを与える存在」かつ、自律した「持続可能な組織」となるべく、総合戦略検討委員会による中長期事業計画の見直しをはじめ、段階を踏んだ経営改善を行っていきます。

2019年5月には、IPCC第49回総会が京都で開催され、「京都議定書」から大きく発展した「パリ協定」を支える「京都ガイドライン」が承認されました。協会は京都市等とともに、IPCCの開催を記念し開催したシンポジウムにおいて「1.5℃を目指す京都アピール」を発表するとともに、「2050年までに二酸化炭素排出量正味ゼロ」を目指すことを表明しました。2020年から、パリ協定が「実行の段階」へ入る中、京都市では、京都市地球温暖化対策条例の見直し及び2021年度からの次期京都市地球温暖化対策計画の策定を進めており、そのことと連携し、CO₂削減や再生可能エネルギーの拡大など、気候変動対策のさらなる推進はもちろん、脱炭素社会に必要な、これまでの延長線上にとどまらない大変革を目指し、様々な取組を行います。

2019年6月には、G20大阪サミットにて、海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が打ち出されました。2020年は、ごみ減量やプラスチックごみを取り巻く課題、食品ロスへの対策はもちろん、限られた資源を繰り返し利用することで資源循環と経済成長の両立を目指すサーキュラー・エコノミー（循環経済）や、生物多様性条約ポスト2020目標の動向にも対応していきます。

また、持続可能な開発目標（SDGs）や、持続可能な開発のための教育（ESD）などの動きも捉えつつ、「持続可能な地域社会の実現に向けて、都市で暮らす我々が、今なすべきことは何か？」を自ら問い続け、これまでの積み重ねをもとに、加速する状況に適応していきます。

協会の屋台骨である京都市環境保全センター（京エコロジーセンター）指定管理業務については、4年間の指定管理期間の最終年度を迎えます。京都市の環境保全活動施策の中枢を担う施設として、京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」や京都市青少年科学センターと連携するとともに、次期指定管理者として選定されるため、より多くの方にご利用いただけるよう、尽力していきます。

上記を踏まえ、「公益財団法人京都市環境保全活動推進協会2016～2025年度中長期事業計画」の開始から5年目の節目を迎える2020年度は、協会の使命実現や目標達成を目指すとともに、新たな発想で統合の成果を生み出す効果的な取組を創出し、持続可能な法人運営に向けて、業務拡大により財政基盤を強化できるよう、確実に事業に取り組んで参ります。

2 事業の方向性ごとの2020年度到達目標

(公益財団法人京都市環境保全活動推進協会2016～2025年度中長期事業計画)

方向性① 地域社会との連携を深める

協会は様々なテーマ・関わり方で、地域で活躍する団体との協力関係をつくり、地域社会の特徴・生活圏・課題に沿った各地域拠点での主体的な「環境に配慮した地域活動」が、モデルとして実験され継続実施している。

方向性② パートナーシップをこれまで以上に

協会の様々な事業が、パートナーシップ型で推進され、多くのパートナーとの関係性が構築されている。また、組織の経営・運営にもかかる新しいパートナーシップ型のモデルができています。

方向性③ 人材育成

協会は、人材育成のステップ「知っている人→伝える人・動く人→動かす人・つなぐ人・しかける人」のなかで、ボランティア事業としては「知っている人」、「伝える人・動く人」を育てることを重点化している。また、地域において「動かす人・つなぐ人・しかける人」の人材育成を図るため、必要なプログラムを整えている。

方向性④ 京都の環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

京都におけるパートナーシップによる気候変動対策・都市型環境教育推進をはじめとした様々なローカルモデルが日本国内の他の地域だけでなく、アジアをはじめとした世界でも展開されている（少なくとも1か国以上での展開）。協会はそのコーディネートの中核として、京都の各種団体のノウハウを活かし、世界へ発信する役割を担っている。

方向性⑤ 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

プログラム開発にあたっては社会のニーズや対象者の発達段階を踏まえ、魅力あるテーマ・内容のプログラムを開発し、実施している。また地域へのアウトリーチを促進し、地域における人材育成を進めるために、環境分野だけでなく様々な団体とのパートナーシップにより、それぞれの地域や対象にあったモデルプログラムを開発し、実施している。

方向性⑥ 発信力の強化

センター事業はもちろん、それを包括して「協会」としての事業や業績を広く周知するための体制（人、ソフト、ハードなど）が整っており、効果的な情報発信（必要な人に、必要なタイミングで、必要な量と質の情報を、発信）ができています。これにより、協会としての新たな事業連携先や顧客になり得るところに情報が発信され、関係性が構築されている。

3 事業の主な内容

※（ ）内の数字は、2020年度予算額（人件費除く／千円未満切捨）。

【1】環境保全活動拠点事業（事業番号1111～1150）

環境教育・学習の機会の充実に向け、伏見区内の環境学習施設（京エコロジーセンター・南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」・青少年科学センター）の3施設で、それぞれの特色を活かし、相互に連携した事業や利用促進に向けた情報発信を行います。

1 京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）指定管理業務

京都市環境保全活動センター（以下「京エコロジーセンター」という。）指定管理業務については、4年間の指定管理者としての4年目を迎えます。

京都市の環境保全活動施策の中核を担う施設としての位置付けのもと、京都市環境教育・学習基本指針を踏まえつつ、市民、事業者、大学、環境保全活動団体、京都市などの広範囲な主体と協働して環境保全活動に取り組み、次期指定管理期間も選定されるために、より多くの方にご利用いただけるよう、以下の事業を行います。

（事業番号1111～1150は、指定管理費より支出）

1111 環境の保全に関する活動のための施設の提供（960,000円）

京都市の環境教育・学習の中核施設として、身近な生活や京都の特性を活かした環境教育・学習の促進を図り、魅力あるテーマ・内容のプログラムを提供します。団体見学においては、現行のPRチラシを更新し、より多くの学校や団体の来館につながるよう、広報を強化します。

1121 環境の保全に関する資料及び装置の展示（910,000円）

京エコロジーセンターの常設展示の更新・補修を定期的に行うとともに、「2050年までに二酸化炭素排出量正味ゼロ」を目指すために必要な取組の紹介等、社会の情勢・状況に沿った企画展の開催を通じて、より多くの方に展示を通して環境保全活動について学ぶ機会を提供します。また、京エコロジーセンター主催の企画展のみならず、他団体との共同主催型企画展も積極的に実施していきます。あわせて、展示を補完し、案内活動を充実させるためのツールを整備します。

1131 環境の保全に関する情報の収集及び提供（924,000円）

環境に関する資料を幅広く収集し、かんきょう図書コーナーにおいて閲覧に供することで、市民の環境意識の向上を図ります。また、かんきょう図書コーナーに関する情報発信を、ホームページ等を通じて行うことで、利用の促進を図ります。

1141 啓発冊子発行（200,000円）

より多くの市民、事業者等に環境保全について理解してもらうため、身近なテーマを取り上げ、絵や写真、グラフ等を用いてわかりやすく説明した啓発冊子を年1回発行します。

区役所や図書館等の市内各所への配架とともに、冊子の認知度を高めるための広報活動を行います。

1142 環境副読本発行 (4,000,000円)

地球温暖化をはじめ幅広く環境問題について学べる環境副読本（小学4年生用，5年生用，中学生用）を最新のデータで作成し，市内全ての小学校および中学校に配付します。また，学校現場での環境学習ツールとして活用できるよう，環境副読本を活用した授業指導案などの情報を発信します。

1143 広報誌の発行 (4,114,000円)

読者が家庭でエコな暮らしを意識・実践し，京エコロジーセンターへ来館するきっかけをつくるために，広報誌「えこせん」を年間で6回発行します。区役所や図書館，児童館，京都市動物園等，市内各所に配架するとともに，動画配信を含め，様々な媒体を通じて広報誌の情報を発信します。

1144 ホームページ等による情報発信 (5,813,000円)

京エコロジーセンターのホームページやSNS等を活用し，京エコロジーセンターの情報を発信するだけでなく，他団体による環境保全活動や関連するイベントの情報発信を行う等，効果的な情報収集と発信を行い，より多くの市民に環境保全活動に関する情報が届くようにします。

1145 各種講座や講演会の企画と実施 (3,127,000円)

環境に配慮したライフスタイルを実践するきっかけをつくるために，市民が興味を持ちやすく，家庭や学校，職場，地域等での実践につながるような，身近な暮らしに関連したイベントや，「2050年までに二酸化炭素排出量正味ゼロ」を目指すために必要な取組や暮らし方の紹介等，社会情勢・状況に沿った内容のイベントをパートナーシップで企画・実施します。また，2020年度は継続的に参加することで学びを深められるような，複数回で構成されたイベントを企画・実施します。

1146 各種団体との連携事業 (40,000円)

京エコロジーセンターの事業において，市民，NPO，事業者等とのパートナーシップを持ち，多様な環境保全活動の支援を強化します。また，各種団体とのパートナーシップによる事業の実績や成果をまとめ，発信します。

1147 環境ボランティアの育成 (2,120,000円)

来館者に対し館内の展示物や環境に配慮した設備を案内する環境ボランティア（エコメイト）を募集し，育成するとともに，すでに活動している環境ボランティアに向けては，ボランティアマネジメントや研修等を行います。あわせて，エコメイト3年目，及び京エコサポーターを対象に，京エコロジーセンターでの経験やそれぞれのスキルを活かせる館

内外の場所や機会に関する情報を提供することで、京都市内の環境保全活動の活性化を目指します。

1148 環境保全活動に関わる人材の育成 (2,360,000円)

市民を対象とした、地域や市民活動のリーダーとして環境保全活動を担う人材育成を目指し、必要な専門性を獲得できるような講座を実施します。また、京エコロジーセンターの環境ボランティア修了生による地域等での環境保全活動の取組について取材を行い、その取組をわかりやすく発信します。

1149 海外との交流 (0円)

京エコロジーセンターにおいて、国内外との連携・交流につながるような国際的な取組の推進を行います。具体的には、国際的な環境保全活動の取組に関する企画展を日英の2言語で実施するとともに、その関連イベントを企画・実施する他、海外での環境保全活動や環境教育に関する事例や情報を収集・整理し、図書コーナー等を活用して発信します。また、これらの取組を京エコロジーセンターの広報媒体において英語で発信します。

※1121 (展示) で100,000円、1131 (図書) で50,000円を予算化しています。

1150 大学生の環境活動支援 (301,000円)

大学生の環境活動を支援するため、インターンシップ受入や研究活動への協力等を継続して行います。また、過去のインターンシップ参加者や大学生ボランティアの現状調査を行い、京エコロジーセンターでの経験がどのように活用されているか情報収集し、今後の大学生向けの環境活動支援メニュー開発に活用します。あわせて、1502 E S D - S D G s 事業との連動も意識しながら、大学生が集まってそれぞれの活動内容の共有や意見交換を行う機会を設けます。

2 南部クリーンセンター環境学習施設管理運営業務 ※京都市委託事業

2101 南部クリーンセンター環境学習施設管理運営業務 (9,000,000円)

(当協会と2社による連合体「さすてな京都運営コンソーシアム」として実施します。)

南部クリーンセンター第二工場に設置された、世界最先端の環境技術等が楽しく学べる環境学習拠点「さすてな京都」において、子どもから大人まで幅広い年代に対し、施設見学や学習プログラムなどを実施します。4年契約の2年目として、小学校4年生の社会見学受入対応や、シャトルバスによる3施設の利用促進等、施設の安定運用を目指します。

【2】国際事業（事業番号1201～1205）

1201 JICA 課題別研修「廃棄物管理能力向上」業務（1,057,000円）

廃棄物管理に関わる行政職員を主な対象とし、廃棄物管理や政策に関する講義や視察を行うだけでなく、市民参画による廃棄物減量や分別への協力をどのように得るのかという視点で約2ヵ月にわたる訪日研修を企画・実施します。また、本研修で学んだことを活かし、参加した研修員がそれぞれの立場で実現可能なアクションプランを作成することを支援し、その実行にかかるフォローアップを行います。

1202 JICA 草の根事業 マレーシア国「ASEANのモデルとなる低炭素社会実現に向けた人材育成とネットワーク拠点の機能強化プロジェクト」(5,739,000円)

2016年2月から2018年12月の約3ヶ年で実施した、「イスカンダル・マレーシアにおける低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」の第2フェーズとして採択の内定を得た本プロジェクトを2020年度秋頃から開始できるよう、現地での合意書の締結やJICAとの契約交渉を進めます。プロジェクト開始後は、マレーシア国ジョホール・バル市において、京エコロジーセンターをモデルとした環境教育・環境保全活動の拠点施設の設立支援及びその機能強化にかかる協力を行います。

1203 JICA 日系研修受け入れ業務

中南米の日系研修員を対象とした約1ヵ月間のJICA日系研修「環境教育リーダー養成研修（都市型環境教育）」コースを企画・実施します。OJT形式で協会の業務を行うことを通じ、環境教育プログラムの企画・実施方法や市民参画での環境教育・環境保全活動の推進のための視点を学び、帰国後それぞれの立場で活躍できる環境教育リーダーの育成を行います。研修実施後は、その成果を整理し、発信します。（JICAを通じて公募がかかり、参加者の応募があった場合のみ実施されることとなります。）

1204 JICA中国 日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援業務（研修受託業務・専門家派遣）（195,000円）

中国で実施されている本プロジェクトにおいて、先方の要望に応じ、情報や意見の交換、訪日研修の受入や短期専門家派遣を行います。これらを通じて、中国での環境学習施設の運営や環境教育の推進を図るための取組及び仕組づくりに、継続して協力を行います。

1205 その他 国際事業（調査、案件形成等）（400,000円）

環境教育、環境学習施設運営、市民参画を通じた国際協力の研修・事業についての情報収集・調査を随時行い、新たな案件形成につなげます。

【3】地域環境活動支援事業（事業番号1301・1302・1600・1700）（予算額は2018年実績。）

※計画時点では未確定ですが、京都市に提案する内容が採択されれば、実施します。

※1301・1302・2101の事業を中心に、京都市から貸与されている「水素で走る燃料電池自動車（FCV）」を活用し、利用段階で温室効果ガスの排出がなく、将来のエネルギーとして中心的な役割を担うことが期待される「水素エネルギー」の啓発に取り組めます。

1301 「エコ学区」ステップアップ事業に係る学習会等支援業務（9,103,000円）

京都市内で地域活動の中心的な役割を担っている「学区」に対して、地域性を活かした学区独自のエコ活動、地球温暖化の現状と対策をはじめとする環境保全に関する知識を提供する学習会、省エネ体験会の開催等、地域の意欲に応じた支援業務を実施することで、地域ぐるみのエコ活動を推進します。（市内全222学区対象）

1302 市民協働発電制度地域コミュニティ版再生可能エネルギー導入支援業務（1,600,000円）

京都市では、地域のコミュニティ組織が主体となった再生可能エネルギー利用設備の普及拡大を図ることを目指しており、地域住民の合意形成のほか、当該地域における再生可能エネルギーによる発電事業に関する調査や事業化を検討するコーディネーターや専門家の派遣業務を行います。

1600 ごみ減量推進事業（16,370,000円）

市民、市民団体、事業者、事業者団体、ごみ問題の専門家、京都市などが対等の立場で参画し、お互いの立場を理解しながら、自発性とパートナーシップを基本として、ごみ減量に関する意識の高揚化を図るとともに、地域でのごみ減量に関する自主的な取組を促進することにより、京都市のごみを減らし、環境を大切にしまちと暮らしの実現に寄与するために、以下の事業を実施します。

ア 普及啓発

- ・パンフレット、ホームページ等を活用し、効果的な広報を行います。
- ・ごみ減量につながるライフスタイルへの転換のヒントや各団体の活動報告等を掲載した情報誌「ごみ日和」を発行します。
- ・全市的イベント等において啓発ブース（パネル展示、アンケート、クイズ、工作教室等）を出展します。
- ・市民向け、親子・子ども向け、企業向けのごみ減量講座やワークショップ等を行います。

イ ごみ減量事業化

- ・市立小中学校児童生徒が回収した学校給食用牛乳パックを、トイレトペーパー「めぐレット」にリサイクルします。
- ・家庭に眠っている不用品の再使用（リユース）を目的として、「いらなくなったらいる人へ」をテーマにフリーマーケットを開催します。

- ・ごみ減量・リサイクルに関する取組など、循環型社会の実現に資する事業に対して助成を行います。（先進的モデル事業：上限 1,000 千円，地域活動事業：上限 500 千円）

ウ 地域活動

- ・小学校区（元学区を含む）を基本単位として、地域住民により組織される地域ごみ減量推進会議の活動を支援します。
- ・地域ごみ減量推進会議及び京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会会員の意識向上を目的に、環境関連施設等への見学会を実施します。

エ 2R型エコタウン構築事業

- ・2R型ライフスタイルを広めるための人づくり事業を実施します。
- ・2Rの考え方や施策，モデルとなる行動様式等を発信します。
- ・主に日用品等の修理等を行う店舗を紹介し，その利用及び家庭ごみの減量を図ります。

1700 京のアジェンダ 2 1 フォーラム事業

市民，事業者，行政が協働して，京のアジェンダ 2 1 に示された取組の具体化及び行動への誘導，並びにその評価及び充実を図り，もって環境と共生する持続型社会を実現するために，以下の事業を実施します。

ア 京都におけるSDGsに関する取組の推進（1701）※自主事業

- ・京都における持続可能な社会づくりを進めるため，国連で採択されたSDGsに関する情報提供を行うとともに，多様な主体が取組を推進できるような仕組みづくりについて調査研究を行い，各方面へ提案します。
- ・京都市地球温暖化対策条例の見直し及び同次期計画の策定に関して，その実現に向けて多様な主体の実践を促すような提言を作ります。

イ 再生可能エネルギーの普及拡大・省エネルギーの推進（1702）※京都市委託事業

- ・京エコロジーセンターを再生可能エネルギー100%にする取組を進め，これをケーススタディとして，建物や事業活動において使用するエネルギーを，再生可能エネルギー100%とすることを旨とするために必要となる情報の提供や環境整備について提案等を行います。
- ・京都市主催の「再生可能エネルギー講習会」等を活用し，再生可能エネルギー設備の導入を進めるための意見交換及び課題解決に向けた対策提案を行います。

ウ 企業等による環境活動促進・支援（1703）※京都市委託事業

- ・京都市内の各地域における事業者，学校，住民が「環境保全活動」をキーワードに協力し合いながら取組む仕組みづくりを目指した活動を充実させるための支援を行います。
- ・事業者等を対象に，CSR活動を進めるためのセミナー等を開催します。

エ 観光のエコ化の推進 (1704) ※地球環境基金助成金 (2年目)

- ・京都各地の観光における環境負荷を低減し、住民も観光客もより過ごしやすく地域の持続可能性を高めるような取組を提案するほか、全国の観光でのエコ化に関する情報交換の機会を持つなどの取組を行います。

オ 2050年までのCO2排出量正味ゼロの実現に向けた多様な主体による取組 (1705)

※京都市委託事業

- ・京都市における2050年までのCO2排出量正味ゼロの実現に向け、多様な主体による取組実践を進めるため、気候危機の現状や脱炭素化に資する取組、仕組み、制度等に関する情報の発信や、実現について考えるワークショップの開催等を行います。

カ 環境情報等の発信と共有 (1706) ※自主事業

- ・会員をはじめ、市民、事業者などに対して、世界の動きや「京のアジェンダ21」の推進について広く情報発信を行うため、情報誌を発行する他、ホームページ等の運営、SNSの活用、メールマガジンの配信などを行います。

キ 他団体との協力事業の実施 (1707) ※自主事業

- ・企業等の事業所に呼びかけて、京都の文化にゆかりのある希少になりつつある植物の育成や、生物多様性に配慮した敷地内緑化、地域の生物多様性保全活動への参加などの取組を広げる活動に関係団体等と協力して行います。
- ・京のアジェンダ21フォーラムのプラットフォーム機能を発揮し、京エコロジーセンターや京都市ごみ減量推進会議とも連携しながら、市民、事業者、行政等の参加と協働を促進するため、市民団体・事業者等との交流事業、共催事業を企画・実施するとともに、他団体の主催事業にも必要に応じて参画します。

【4】講師派遣事業 (事業番号1401)

1401 講師派遣・講座の企画実施 (セミナー・研修・イベント等) (199,000円)

外部でのセミナーやシンポジウム等に職員を派遣し、環境教育、環境学習施設運営やボランティアコーディネーション、SDGsやごみ減量等をテーマとした講演や事例発表を行います。また、依頼元の要望にあわせた出前講座、セミナーやワークショップの企画実施を通して、他団体による環境活動の支援を行います。

【5】調査・研究・開発・発信事業 (事業番号1501)

1501 これまで蓄積してきたノウハウのソーシャル・ビジネス化

京エコロジーセンター・京都市ごみ減量推進会議・京のアジェンダ21フォーラム等、協会の取組を通してこれまで蓄積してきた、施設運営・環境教育・ボランティア育成及びマネジメント・NPOや地域活動支援のノウハウ、ごみ減量や再生可能エネルギーの推進

に関するコンサルティングや資源の提供をソーシャル・ビジネスとして展開するための調査・研究・開発・発信を行い、協会の将来展望を開きます。

【プロモーション・ファンドレイジング】(341,000円)

2019年度に整理を行った組織基盤強化にかかる寄付の受入体制の整備や人材育成のための評価・研修制度の整備等の2020年度に実施すべきタスクについて、協会の各課の代表者により構成されるタスクチームを中心に検討し、取組を進めていきます。

2020年度秋頃を目指して、協会の2021～2025年度の中期計画が策定されることから、この中期計画を受けて、2021年度以降の具体的かつ中期的なファンドレイジング・組織基盤強化計画を、外部専門家の客観的な意見を頂きながら策定します。

1502 ESD-SDGs事業 ※文科省補助事業（2年目）

※計画時点では未確定ですが、提案する内容が採択されれば、実施します。

2018年度ESDユース・ネットワーク作業部会の協議を基に、2019年度に実施した文部科学省・ユネスコ活動費補助金（SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業）を継続させ、SDGsやESDに興味関心のあるユース（大学生）に、実践的な学習プログラムを提供するとともに、組織を越えてつながり、活動内容を進化させることができるネットワークを構築します。

1503 省エネ家電買替促進事業 ※京都市委託事業

※計画時点では未確定ですが、提案する内容が採択されれば、実施します。

家庭での省エネ行動を活性化させるため、家庭で使用するエネルギー量の高い家電の買い替えに着目したキャンペーンを実施します。

1504 再エネ最大化アクション事業 ※京都市委託事業

※計画時点では未確定ですが、提案する内容が採択されれば、実施します。

再生可能エネルギーの普及拡大のため、設置者と事業者を結びつけるような取組や、再エネ由来の電力利用を拡大していくような取組を行います。

II 収益事業

5101 施設の使用許可及び公金徴収事務

※徴収した使用料金は全額京都市の収入となります。

京エコロジーセンターでは、会議室等の貸し出しを行っており、利用できるスペースは会議室2、視聴覚室(シアター)、リサイクル工房(実習室A)、エコ厨房(実習室B)が各1となっています。京エコロジーセンターの認知度を上げるための効果的な広報等に取り組み、来館者数、利用率の向上を図ります。

Ⅲ その他事業（相互扶助等事業）

6101 秘密書類リサイクル事業（10,530,000円）

個人情報や機密情報を含む書類は紙としてはリサイクル可能なものですが、通常古紙回収等では情報漏えい等の可能性があるため、焼却により処分される場合が散見されます。

本事業は紙のリサイクルを一層推進するため、個人情報や機密情報が外部に漏れないよう保持したまま、溶解処理により段ボール板紙に再生するものです。

この事業は会員向け事業として実施し、収集運搬は古紙を扱う事業者組合へ入札により委託します。